

都市農村交流活動に対する来訪者の評価分析

群馬県新治村「たくみの里」を事例として

Analysis on the Evaluation of Rural-Urban Exchange Activities Viewed by Tourists

- A Case Study of "Takumi-no-Sato" in Niiharu Village, Gunma Pref. -

中島正裕* 千賀裕太郎* 齋藤雪彦**

Masahiro NAKAJIMA* Yutaro SENGA* Yukihiko SAITO**

はじめに

都市農村交流活動^{注1)}が全国各地で実践されているものの優良事例は数少ない。その要因の一つは、農村地域における来訪者のニーズと観光資源の特性を十分に把握しないまま、事業主体による収益重視のハード整備（都市農村交流施設）が行われてきたことにあると考えられる。

こうした問題意識に基づき、本研究では都市農村交流活動の先進地と言われている群馬県新治村「たくみの里」を対象地として農村地域の観光資源に対する来訪者の評価、及び来訪者の満足度が高い観光資源の維持管理の現状と課題を検討する。

研究方法

(1) 調査地概要

新治村では村内を10のゾーンに区分し、各ゾーンにある資源を有機的に連携させて村全体を一つの農村公園と位置付けている（新治村農村公園構想）。その中で「たくみの里」は中心ゾーンであり、年間約40万人もの観光客が訪れる。当ゾーンでは伝統工芸が体験できる「職人の家（22軒）」地域の特産物の販売や村内の情報を発信するセンター施設（豊楽館）等がある。また、来訪者はこれらの施設以外にも野仏巡り（自然散策）をしながら、農村景観や町並みを楽しむこともできる。

(2) 調査・分析の方法

本研究では、来訪者の意識調査としてヒアリング調査（41名）とアンケート調査を行なった。アンケート調査の対象者は「たくみの里」内の宿泊施設（JR 東日本：ファミリーオ新治）への宿泊者とした。宿泊客リストから無作為に400名を抽出し、郵送によりアンケート調査票を配布した。回収率は60.0%（240部）であった。

来訪者の評価分析

(1) 観光資源の概要

「たくみの里」の観光資源とそこから得られる収入比率を表1に示す。「豊楽館/香りの家」への収入比率が最も大きい。当施設は雇用機会の拡大にも貢献している（パート職員65名、年間延べ約500人のシルバー人材の活用）。また「農産物直売所」には約300軒の農家が出荷している。

表1 観光資源の概要と収入比率

| 観光資源 | 観光資源の内容 | 収入比率(%) |
|------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 収入有り | 職人の家(22軒) | 工芸体験や工芸品の販売 32.1 ¹⁾ |
| | 豊楽館/香りの家 | 郷土料理(そば、豆腐)の販売 50.1 |
| | | 特産物(味噌・納豆・蒟蒻など)の販売 |
| | 農産物直売所 | 新鮮な野菜・果物の販売 17.8 |
| 民間の店舗(13軒) | 郷土料理や土産物の販売 データなし ²⁾ | |
| 収入無し | 野仏巡り | 野仏や史跡を巡りながらの自然散策 - |
| | 集落景観 | 昔の面影を残す萱葺き屋根の民家や水路の花 - |
| | 地域住民 | 地域住民との交流(あいさつ・会話) - |

1)「職人の家」の収入比率は22軒全てを含む。

2)民間の店舗からの収入データは得られなかったため、分析対象から除外した。

(2) 観光資源に対する満足の単純集計結果

「職人の家」(64.1%)、「集落景観」(52.6%)、「野仏巡り」(48.7%)に関する来訪者の評価が高かった(表2)。また「サービス」では「余暇活動費用が低廉」(64.1%)への評価が高かった。

表2 観光資源に対する来訪者の満足度

| 観光資源 | 観光資源から来訪者が得られる満足の内容 | 満足度(%) |
|------------|---|------------|
| 「職人の家」 | 体験をしたり、職人との交流が楽しかった。 | 64.1 |
| 「農産物直売所」 | 新鮮な野菜や果物を買うことができた。 | 34.6 |
| 「豊楽館/香りの家」 | 手作り味噌や蒟蒻など、地域の特産物を買うことができた。 | 32.9 |
| 「豊楽館/香りの家」 | そばや豆腐料理など、地元の料理が美味しかった。 | 32.1 |
| 「集落景観」 | 集落の町並み(白壁の家屋、水路の花など)の美しさが楽しめた。 | 52.6 |
| 「野仏巡り」 | 野仏を巡りながら自然散策が楽しかった。 | 48.7 |
| 「地域住民」 | 地元の人と挨拶や会話をしたりして楽しかった。 | 28.6 |
| サービス | あまりお金をかけなくても楽しめた。 | 64.1 |
| | 他の観光地を訪れる際の宿泊・休憩場所として便利である。 村までのアクセス(道路・交通機関)が便利である。 | 2.6 6.8 |

満足度：満足した項目全てに をしてもらい、各項目の度数を回答者数(234人)で除した。
サービス：観光種別に関連するシステム・条件

*東京農工大学大学院連合農学研究科 United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo Univ. of Agr. and Tech.

**東京農工大学農学部 Faculty of Agriculture, Tokyo Univ. of Agr. and Tech. キーワード：都市農村交流、地域活性化、アンケート調査

(3) 観光資源の特性

来訪者の満足度という点では「職人の家」、「集落景観」、「野仏巡り」に関する内容の評価が高く、「豊楽館/香りの家」、「農産物直売所」に関する内容の評価は相対的に低い傾向にあった(表2)。

一方で、地域経済に与える影響という点では、「集落景観」、「野仏巡り」からの直接的な収入はなく、また「職人の家」に関しても個人経営(22軒)であるため収入を得られるのは限られた者である。しかし、「豊楽館/香りの家」、「農産物直売所」は雇用・収入状況からすると、地域経済に与える影響は大きいと言える(表1)。

すなわち「たくみの里」の観光資源の特性として、来訪者の満足度の高い観光資源(以下「集客資源」)と地域に直接的に収入をもたらす観光資源(以下「収益資源」)は概ね異なる傾向にある(図1)。

| | 高い満足 | 低い満足 |
|------|------|------|
| 高い収入 | A | C |
| 低い収入 | B | D |

A～B:職人の家 B:集落景観,野仏巡り
C:豊楽館/香りの家 C～D:農産物直売所

図1「たくみの里」における観光資源の特性

(4) 観光資源に対する具体的な満足^{注2)}

ここでは、来訪者の評価が特に高かった「職人の家」と「集落景観」についてのみ述べる。

1)「職人の家」:職人から技術指導を受けて自分で作品を完成させることへの喜び、職人の技の見学や技術指導を通じての“交流”、子供の情操教育等の満足がみられた。

2)「集落景観」:旧三国街道の面影を残す茅葺き屋根や白壁の建物、道路・水路沿いに植えられている花、建物の空間的な配置、四季を通じた農村風景の視覚的变化(新緑～冬景色)を目にすることができること等に対する満足がみられた。

(5) 観光資源に対する具体的な不満と要望^{注2)}

来訪者の不満としては、「職人の家」に関するものでは、体験料がやや高額である、団体客(mass)の増加により個人客が十分なサービス(技術指導や会話)が受けられない等の商業化への不満がみられた。また、村内での移動手段や余暇活動に関する情報量の不足への不満がみられた。

来訪者の要望としては、現在の農村景観を壊すような観光開発をするのではなく、今後も都市住

民の精神的充足を満たせる場所であって欲しいという農村空間の保全などへの要望がみられた。

集客資源の現状と課題

(1)「職人の家」^{注3)}

家屋の所有形態(村有^{注4)}・私有)と経営状況を指標に「職人の家」を分類すると、村有・経営安定型(5軒)、村有・経営不安定型(2軒)、私有・経営良好型(4軒)、私有・経営安定型(8軒)、私有・経営不安定型(3軒)の5つに分類できる。

その中で、は後継者の育成、とは立地条件(中心地から遠隔地)の格差の是正、とは商業化への対策、がそれぞれ必要である。

(2)「集落景観」、「野仏巡り」^{注5)}

「集落景観」、「野仏巡り」の維持管理に寄与する主な要素として「景観条例」、「須川宿電柱移転事業」の他にも、本来は地域の生活環境保全のための活動である「道普請・清掃活動」、「花植活動」がある。しかし、来訪者の増加による地域の生活環境の悪化¹⁾(水路へのゴミの投棄、花の盗難等)の中で、今後「道普請・清掃活動」、「花植活動」が持続的に行われていくには「集落景観」や「野仏巡り」の価値形成にこれらの活動が貢献しているという住民の認識を育てる必要がある。

おわりに

都市農村交流活動における観光資源は、集客資源としての性質と収益資源としての性質を有すると考えられる。

今後、継続的な都市農村交流活動をおこなう上では、こうした観光資源の特性の把握とともに、集客資源の質の持続性の確保のためには収益資源からの収益の再配分も必要となるであろう。

注1) 本稿では農水省等の補助事業により建設した交流関連施設を拠点として来訪者に農村風景や郷土料理等を提供し、地域経済の活性化や人的交流を行なうことを目的とした活動をいう。

注2) ヒアリング結果(41名)とアンケートの自由記入欄(記入者:165名)の結果より、観光資源に対する来訪者の具体的な満足・不満・要望を推察した。

注3) 職人22名へのアンケート調査(面接調査法)

注4) 役場からの委託で村有施設を運営している職人は、家賃が無料の他にH10年度迄は金銭面での補助もあった。

注5) 役場と各集落(4集落)の区長へのヒアリング調査

1) 中島正裕・千賀裕太郎・齋藤雪彦(2001):「都市農村交流活動に対する住民の評価に関する研究 群馬県利根郡新治村を事例として」農村計画論文集 No3 pp.25-30
謝辞: 本研究を進めるにあたり関東農政局企画調整部、及び新治村役場には多大なるご協力を頂いた。ここに記して深謝する。